

小児慢性疾患（臓器系）に関する研究（厚生省）

昭和51年度報告についての評価

評価委員 村 上 勝 美

本年度は前年度の組織に変改が加えられ、それにより具体的研究企画の面での進展が企図されている。

臓器別の分数項目はおおむね妥当である。しかし、重点的に限定するという視点に立つのがよいと思われるが多少総花的というか、適当でないものが含まれている印象を受ける。しかし研究班員、同協力者はきわめて適任であり、それぞれの班で充実した研究企画と組織の下に大きな示唆に富む成果が得られていることは認められる。

筆者の専門にかかわる項目について2、3の commentation を記して責を果たしたい。

(1) 腎疾患

小林班員によって集纏された data の処理、それから抽出された commentation は現在本邦小児腎臓病研究の top level のものである。集団検尿の意義や screening の方法についての研究 side からの意見は全く同感であり、社会医学、学校保健等の立場からの重要性のほかにも研究上の諸問題、ことに従来少ないとされていた病型の発掘、その病理組織学的解明について領域を拡大し、質的に深めていることは本研究の功績というべきで、今後の研究上の新しい指向を強調したものと評価したい。

腎研究は検索方法の進歩によって小児科領域でも画期的な新しい面の知識が得られるようになった。恐らくはそれから帰納される腎炎の発生因、mechanism の解明への大きな手がかりが得られるようになるであろう。しかし、電顕では標本の大きさによる全般的視野の客観的提示の困難、蛍光抗体法における現時点の技術的 level のばらつきによる不安定がつきまとい各研究者の知見発表、主張を同一 level で客観化し、opinion を纏めることに一抹の不安が感じられることは否定できない。一般光顕の所見の interpretation についても同様なことがいえよう。

小児の慢性腎疾患の中での先天性の諸病態についての縦断的、横断的研究は小児の特徴的な面として遂行しなければならない重要課題である。これらの解明によって host environment の関係が一層明らかにされる。

また学校集団検尿の中で是非とも確立してほしいものに尿路感染症の screening 法があり、この点についても適当な commentary が望まれる。

いずれにしても腎臓病の研究には機能の面からも生検による形態の面からも、また治療の上からも臓器別の他の各種疾患のどれよりも多数の研究費を必要とする点を強調したい。

(2) 心疾患意見を控えるが、研究成果は著しい。

(2) 難治性気管支喘息

とくに難治性の場合には成因，誘因の解明も必要であるが，研究は治療，対策に集約されていることは適切である。研究の成果はその意味でも充実しているが，さらに今後は運動，鍛練療法についての厳正な適応決定について研究される必要がある。成因的には何故難治性になるか，host か noxe か，その原点に立ち帰って決定すべきで，生態学的に見直す必要があり，その時点で真の治療法が成立すると思われるし，さらに予防悪化進展防止の手段を提供するであろうと考えられる。

(4) 以下に関しては no comment である。

いずれにしても，慢性疾患には治るものは少なく，治らないものが多い治らないものには直接生命とかわりの少ない静止型と進行悪化し，死に導く進行型とがある。治らないものは成人にもちこむものであるから，それだけに慢性疾患の対策は小児においても重要である。さらに臓器系の疾患研究でも総論的にはむろん，各論的にも考慮すべき問題が多い特に心理面と教育面についてはきわめて重要な問題として対処すべきである。

 **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

本年度は前年度の組織に変改が加えられ、それにより具体的研究企画の面での進展が企図されている。

臓器別の分数項目はおおむね妥当である。しかし、重点的に限定するという視点に立つのがよいと思われるが多少総花的というか、適当でないものが含まれている印象を受ける。しかし研究班員、同協力者はきわめて適任であり、それぞれの班で充実した研究企画と組織の下に大きな示唆に富む成果が得られていることは認められる。